

感謝録

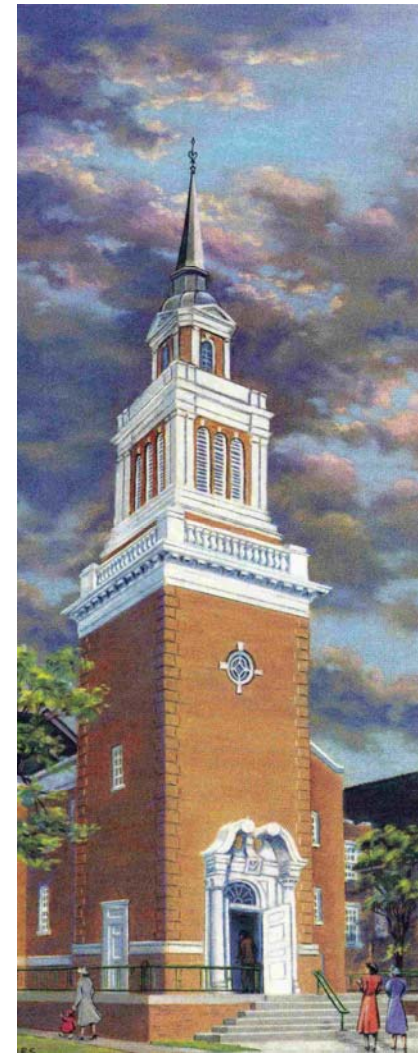
荒井 久和子姉	不破 満雄兄	加納 幸子姉
小坂 るみ姉	三縄 博兄	三縄 都美子姉
坂田 淑姉	下竹 博兄	下竹 寛子姉
下竹 祐三郎兄	下竹 由美子姉	武井 里花姉

Scroggins 由紀牧師

記事: 消息

- * 次の方々を覚えて、主のお癒やしがあるようお祈りください。
陳百合子姉、江崎Alice姉、不破満雄兄
- * 先週、由紀牧師がボストンの南部牧師御夫妻にお電話で話されたところ お二人ともお元気だそうでなによりでした。
- * 過ぎにし聖日(4月21日)
- 一 由紀牧師の説教: "多く愛する者"と題して、ルカによる福音書7章47-50節からでした。パリサイ人シモン家に食事に招かれた主イエスに、ある罪深い女がきて、涙と自分の髪の毛で主の足を拭い、主の頭に香油を塗りました。自分を正しい者として主イエスを心の中で裁いたシモンに対して主イエスは、多く愛する者は、多くゆるされるといわれました。罪の赦しが必要だと自覚し、近づいた者たちを、主イエスは、決して裁かず受け入れられたことを基に、互いに受け入れあい愛しあうことについて考えました。
- 一 聖書研究: ローマ人への手紙9章21-24節からでした。神は、陶器師が粘度からさまざまな用途の器を作るのと同じように、私たちを、つくられました。そしてユダヤ人のみならず、異邦人にも、あわれみの器としての恵みを授けてくださいました。神はどんな民族も分け隔てなく愛していたださっている恵みに思いをいたしました。
- 一 礼拝後、ミッション・トリップ ランチは、日本語部の御婦人方の御苦労によって、皆さんに喜ばれる素晴らしいランチでした。5スターという声もありました。ライスクッカーが壊れていたのも、坂田姉の機転で鍋で炊いた御飯は、ライス・クッカーで炊くよりもおいしい御飯でした。
- 一 2pm から、Lincoln High School Singers のすばらしい若い声とリズムのコーラスをエンジョイしました。
- * 4月28日(日) 11:30am Howel Hall
Pastor Carol が、"Among Baptists (and a few Muslims, too) として、Lebanaon, Republic of Georgia へ行かれた旅の報告がありますので、礼拝を早めに切り上げて参加したいと思います。

発行: 2013年 4月 23日 ノースショア・バプテスト教会日本語部
スクロギンズ 由紀牧師 (Rev. Yuki Scroggins)
Tel: 773-728-4200 Ext.26 Email: yscroggins@northshorebaptist.org



週報

第3431号
2013年 4月 28日

ノースショア バプテスト教会 日本語部
North Shore Baptist Church Japanese Congregation

5244 North Lakewood Ave. Chicago, IL 60640
Tel: 773-728-4200 Web: www.northshorebaptist.org

イースター第五日曜日礼拝順序

2013年 4月 28日 午前11時 南部チャペル

前奏 武井 里花姉
 頌栄 539
 開会の祈り Scroggins 由紀牧師
 主の祈り 一同
 交読文 1 詩篇 1

賛美歌 7 "いざやともよ いさみすすめ"
 祈りの時 Scroggins 由紀牧師
 聖書拝読 小坂 るみ姉
 ヨハネの第一の手紙 1章 5-7節

賛美歌 177 "七日のたび路 やすく過ぎて"
 説教 Scroggins 由紀牧師
 「神にある光」

賛美歌 515 "ああ主のひとみ、まなざしよ"
 献金 三縄 都美子姉
 報告
 頌栄 541
 祝祷 Scroggins 由紀牧師
 後奏 武井 里花姉

(礼拝終了:奉仕開始)

祈禱・聖書学習会 午前9時45分 109号室
 指導: Scroggins 由紀牧師
 ローマ人への手紙 9章

交わりの時 礼拝後 南部チャペル

今週の聖句
 使徒行伝 11章 1-18節 詩篇 148篇
 黙示録 21章 1-6節
 ヨハネによる福音書 13章 31-35節

憩いの場

“信仰の真髄”

さて、信仰とは、望んでいる事がらを確信し、まだ見ていない事実を確認することである。昔の人たちはこの信仰のゆえに賞賛された。(ヘブル人への手紙 11章 1-2節)

今日、4月19日は、私の何人かの知り合いの誕生日でもあるので、毎年どんな天気だったのか印象に残っている事が多いのですが、春らしい花が一度に満開に咲く例年と違い、今年は雪がちらついていました。しかし、朝、雪の中を歩いていると、冷たい風にも負けず、すみれやブルースターの花がけなげに咲いていました。まるで寒い天気であっても、もう春だと確信を持っているようでした。毎年春は必ずやってくるので、生命体のどこかが記憶しているようにも見えました。どうしても、人間は文句が先に立ってしまいますが、言葉のない植物の姿には教えられます。

ヘブル人の手紙において、信仰とは望んでいる事柄を確信し、見ていない事実を確認することであると書かれていますが、私たちは言葉のない植物ほどにも信仰がなく、手に触れる、みえるものに頼ってしまうことが多いかもしれません。しかし、この世の人間関係や物質的なものばかりに目が向いているとしたら、信仰とは二次的なことになってしまうのではないのでしょうか。アブラハムやモーセがそうであったように、神は私たちの人生において、さまざまなチャレンジを通して、より深い信仰を持つことができるように導いてくださいます。私たちがいくつになっても、過去に執着することなく、来るべき未来に目をはせる時、私たちの信仰は神を知らない人々への証になるのではないのでしょうか。どうか、わたしたちがまだ目に見えない、しかし必ず到来すると約束されている神の御国を待ち望み、御心を行うことができますようにお祈りします。(スクロギンズ由紀)